



Pure Pacific 純No.169 パ Sep.2013

純パの会会報「純パ」第169号

2013年9月28日発行

発行：純パの会 〒161-0032 東京都新宿区中落合3-13-1 塚原方

東北楽天を追いかける夏休み

塚原 隆(東京都新宿区)

いったい田中将大の連勝記録はいつまで続くのか？ 連勝記録がスタートしたのは昨年8月26日のファイターズ戦からだから、すでに1年以上も好調を持続しているのが凄い。9月13日現在で開幕21連勝とし、連続シーズンとしては25連勝を達成した(その後開幕からの連勝は22、連続シーズンとしては26連勝に記録を伸ばした)。

また連勝記録を更新するたびに稲尾和久(西鉄ライオンズ)の名前が浮上してくることは、これもパ・リーグファンにとっては嬉しいことだ。稲尾が20連勝を達成したのは1957(昭和32)年なので56年前のことになる。もちろん私はこの世に存在していない。田中将大がオール先発で記録を更新したのとは対照的に稲尾は先発にリリーフにとフル回転をした。

20連勝を達成したのは1957年10月1日の毎日オリオンズ戦であるが、この時も2回から島原幸雄をリリーフして9回まで投げ切ったの記録達成だ。1回に大下弘が3ランで3-0と西鉄がリード。ここで監督・三原脩が「稲尾が新記録を作るチャンスだ」とひらめき、稲尾をブルペンに走らせた。稲尾は2回からの登板。6回に榎本喜八にソロホームランを浴びるものの、9回までその1点に抑え、4-1で勝利した。それにしても大下弘やら榎本喜八やらパ・リーグの伝説的選手が数々出場する試合で稲尾は大記録を達成した。

この20連勝を記録の神様である宇佐美徹也さんは2つの視点から評価をしている。

- 20連勝中9勝を上位チームから奪っている(2位・南海から5勝、3位・毎日から4勝)
- そして20連勝中10勝が1点差試合(特に12連勝目から19連勝目まで連続8勝が1点差試合)

そしてプロ野球記録大鑑(1993年発行)では「苦闘の中らちとった内容の濃い記録であることが明らかだ」と記している。改めて稲尾和久の持つ偉大な記録を再認識することができた。

*

さて前置きが長くなってしまったが、今年も夏季休暇は好調のイーグルスを追っかけることにした。5日間の休暇を前後の土日と合わせ9日間の夏休み。8月16日にマー君が21連勝の日本記録を達成し、翌日はスポーツ新聞6紙を購入することから私の夏休み